

社会資本総合整備計画 事後評価書

石 川 県 白 山 市

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金） 事後評価書

令和 3 年 3 月 3 1 日

| | | | |
|-------|--|-----|---------------------|
| 計画の名称 | 5 霊峰白山から日本海に至る白山市の自然・文化・伝統・歴史を繋いだまちづくり | | |
| 計画の期間 | 平成27年度 | ～ | 平成31年度(令和元年度) (5年間) |
| 計画の目標 | 交付対象 | 白山市 | |

白山市は、県都金沢市の南西部に位置し、平成17年に1市2町5村の合併により誕生した。霊峰白山から手取川扇状地を経て日本海に至り、豊かな自然を有する山間地や田園、市街地などの多種多様な土地利用が存在する市である。広大な市域は、国道8号・157号や北陸自動車道(白山IC・美川IC・徳光スマートIC)、J R北陸本線(松任駅・加賀笠間駅・美川駅、小舞子駅)、北陸鉄道石川線といった高速交通体系へのアクセスが容易で、交通利便性の高い環境にあり、行政等の公共施設が集約する『平野部』と、霊峰白山の麓に広がる自然環境や多くの観光施設を有している『白山ろく地域』に大別される。平野部では就業先の不足により、市内就業率は年々減少傾向にあり、市内市の下位であることから、人口の流出が懸念されている。白山ろく地域では、少子高齢化・観光客の減少および市内就業先の不足による人口の流出が起因となり地域活力の低下が問題となっている。

また、白山市では合併後策定された「白山市行政改革大綱」に基づき公共施設の統廃合による合理化を進めており、公的施設跡地については、地域コミュニティ形成等の場として利活用を進め、都市機能集約化に努めている。その施策の一つとして合併当初は旧松任市に本庁、旧2町5村に7支所を配置する「総合支所方式」により行政サービスを提供してきたが、平成28年度までに「本庁方式(本庁のみ)」への移行が予定されている。白山ろく地域では役所機能の本庁集約移転や公共施設統廃合により、住民同士のつながりが希薄となり、古くから培われてきた各地域の伝統・文化等の地場産業の衰退が懸念されている。

これらのことから、平野部においては、無秩序な開発を抑制し、適正な土地利用誘導を目的に、交通利便性の高いIC周辺・鉄道駅周辺での土地画整理事業により、下水道をはじめとするライフラインの整備と併せ住宅地・工業団地・観光誘客施設を集約整備することで、職住近接の雇用機会の拡大が図られ、事業者および人口の流出防止かつ交流人口の拡大が促進される。同時に、白山ICから広域幹線(平成24年4月全線供用開始)で結ばれた白山ろく地域においては、既存資源に磨きをかけることで平野部からの交流人口を誘導し、白山ろく地域の居住者が平野部で就業先を確保することにより、人口流出を抑制し地域活力の維持が図られる。広域合併した一体の都市として、地域特性に応じたまちづくり方針ではあるが、都市機能拡散防止を図りながら、既存の交通体系を活用して特徴ある各地域の多様性を繋ぎ、市全域への人の流れを創出することで、活力あるまちづくりを目指すものである。

具体的には、市の玄関口である白山IC周辺において土地画整理事業を実施し、県内最大規模の史跡公園の整備・既存工業団地の拡張および観光誘客施設を立地する。また、平成27年北陸新幹線金沢開業に併せて整備された白山総合車両所(新幹線車両基地)およびJR松任駅に隣接するJR西日本金沢総合車両所(在来線車両基地)の二つの車両基地を本市の新たな観光拠点に位置づけ、白山総合車両所隣接地で計画されるJR在来線新駅整備実現のため、土地画整理事業の実施により新駅へのアクセス道路および駅前広場を整備する。二つの車両基地を在来線で連携させることにより、全国各地からの鉄道愛好者等の誘客が期待される。

さらに、全国三千余社の白山神社の総本宮であり年間70万人の参拝客が訪れる白山ひめ神社を有する鶴来地区や、平成24年7月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された白峰地区へ、白山ICから繋がる広域幹線により来訪者を誘導する。加えて、金沢と本市をつなぐ北陸鉄道石川線はサイクルトレインでもあり、その終着駅である鶴来地区周辺をサイクリングをテーマに再整備すると共に、キャニオンロード(自転車道)の活用により来訪者を鶴来地区や白山ろく地域へ誘導し、交流人口の拡大を目指すものである。

| |
|----------------|
| 計画の成果目標(定量的指標) |
|----------------|

地域特性に応じたまちづくりにより、広域合併した一体の都市として都市機能拡散防止を図りながら、既存の交通体系を活用して特徴ある各地域の多様性を繋ぎ、市全域への人の流れを創出することで、活力あるまちづくりを目指す。

| |
|---------------|
| 定量的指標の定義及び算定式 |
|---------------|

| | 定量的指標の現況値及び目標値 | | | 備考 | | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------|--------------|--------------|----------|---|--------|---|--------|---------------------------|------|
| | 当初現況値 | 中間目標値 | 最終目標値 | | | | | | | |
| | (H26当初) | (H29末) | (H31末) | | | | | | | |
| 観光入り込み客数の増加 白山市における観光入り込み客数 | 5,291,520人/年 | 5,324,000人/年 | 5,356,000人/年 | | | | | | | |
| 白山市内の雇用機会の拡大 白山市内の事業所における就業者数 | 52,112人 (H24経済センサ) | 52,200人 | 53,800人 | | | | | | | |
| 下水道整備率の向上 新たに市街化される区域の下水道整備率 | 0% | 60% | 100% | | | | | | | |
| 全体事業費 | 合計 (A+B+C) | 1,637百万円 | A | 1,637百万円 | B | 0.0百万円 | C | 0.0百万円 | 効果促進事業費の割合 C / (A+B+C) | 0.0% |

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

| | |
|--------------|--------------|
| 事後評価の実施体制 | 事後評価の実施時期 |
| 白山市において評価を実施 | 事業完了後 |
| | 公表の方法 |
| | 白山市ホームページで公開 |

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・松任北安田南部地区及び横江町地区の土地区画整理事業の整備により道路や公園がされ、合わせて企業の誘致により、人口定住の受け皿や雇用の確保ができた。
- ・土地区画整理事業と併せて汚水幹線の整備により、ライフラインの確保や生活環境の向上となった。
- ・開山1300年を迎えた年間70万人が来訪する白山比咩神社へのアクセス道路の整備やサイクリングロードの駅として旧加賀一の宮駅舎の再整備等により交流人口拡大の促進が可能となった。
- ・重要伝統的建造物群保存地区に選定された白峰地区では、無電柱化等の整備により防災や景観の向上が見られた。

II 定量的指標の達成状況

| | | | | | | | | |
|----------------------|-------------------------|-----------|--------|----------------|---|----------------|---|---|
| 指標①（白山市における観光入り込み客数） | 最終目標値 | 5,356,000 | 人/年 | 目標値と実績値に差が出た要因 | 観光地の中ではなくさん街道市場（旧まっとう車遊館）の平成30年の閉鎖に伴いH26年に年間120万人あった利用者が無くなったことが要因であるが、それを考慮したとしても増加したと考えることができる。 | | | |
| | 最終実績値 | 4,298,860 | 人/年 | | | | | |
| | 指標②（白山市内の事業所における就業者数） | 最終目標値 | 53,800 | 人/年 | | 目標値と実績値に差が出た要因 | 土地区画整理事業により道路網の整備や人工定住の受け皿が確保できたことと、周辺の企業誘致や市内の工業団地への企業の精力的な進出により雇用の確保ができたことにより、就業人口が増加がみられた。 | |
| | | 最終実績値 | 54,992 | 人/年 | | | | |
| | 指標③（新たに市街化される区域の下水道整備率） | 最終目標値 | 100 | % | | 目標値と実績値に差が出た要因 | | 土地区画整理事業の道路整備と併せて汚水幹線の整備を実施することで効率的に整備ができた。 |
| | | 最終実績値 | 100 | % | | | | |

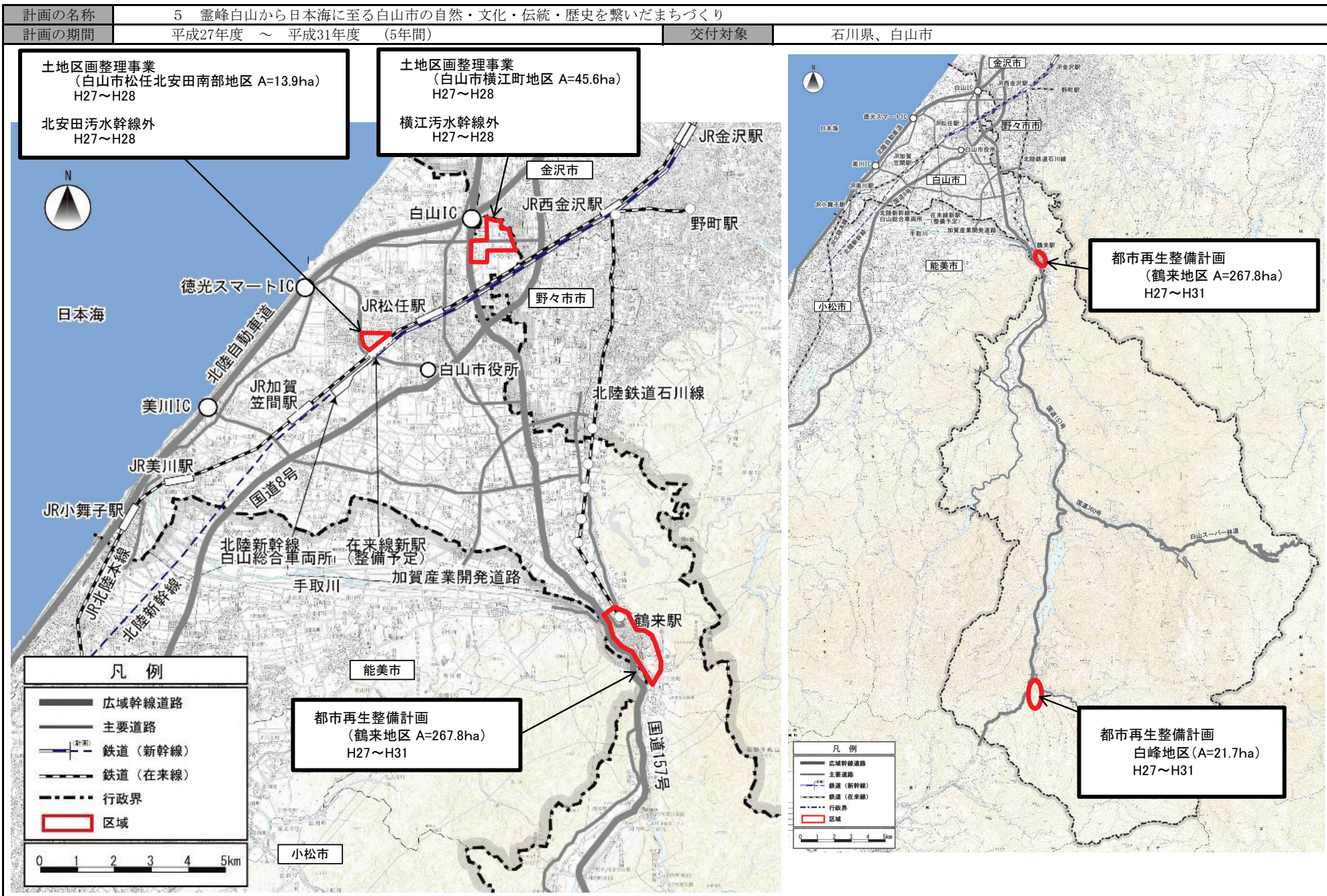
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況
(必要に応じて記述)

- ・土地区画整理事業による面的整備により商業施設などの企業の進出の促進が図られ、保留地販売も好調であり区域内の定住人口の増加が図られた。
- ・白峰地区においては、無電柱化により重要伝統的建造物群保存地区として景観の相乗効果が図られた。また、まちづくりシンポジウムにより、景観やまちづくりに取り組む地元の方や学識者により市外へ整備効果や今後の取組などの発信を実施した。
- ・鶴来地区においては、年間70万人を訪れるという白山比咩神社への来訪者や自転車を利用した観光客をターゲットとして道路整備や旧加賀一の宮駅の駅舎や周辺整備の実施により、鶴来市街地の徒歩による散策やサイクルマップの活用により自転車を利用する観光客が多くなり、空き家を活用したカフェなどの出店の増加もみられ交流人口の増加を目指す事業の効果が見られた。

3. 特記事項（今後の方針等）

- 想定される事業
- ・白峰地区においては、雪だるま祭などの住民と連携したイベントの継続
 - ・鶴来地区においては、まちづくり協議会により地元主体のまちづくりを継続し、地元作家によるキャラクターを利用したイベントなどを実施することにより交流人口の拡大を図る。
 - ・松任北安田地区においては、新駅の整備により、駐車場、駐輪場の整備、路線バス、コミュニティバスの交通ネットワークの創出
 - ・横江町地区においては、商業施設や企業、市と連携し「白山の森プロジェクト」により様々なイベントを実施し市内外へ世界ジオパークやSDGsの普及発信を実施していく。

市街地整備



凡例

- 広域幹線道路
- 主要道路
- 鉄道(新幹線)
- 鉄道(在来線)
- 行政界
- 区域

都市再生整備計画
白峰地区(A=21.7ha)
H27~H31